

つぎの文章をよく読んで、5ページから8ページの問いに答えなさい。

「将来の夢はお金持ちになって幸せになること」などと言う友だちはいませんか。たしかにお金があれば欲しいものを買うことができ、幸せを感じることがあるかもしれませんが、そもそも「お金」が存在しなかったとしたら、どうでしょうか。「お金で買う」という行為も「お金持ち」も存在しませんから、当然、欲しいものを買って幸せになるということもありません。気がつけばお金は身近になりすぎて、それが無い世界はなかなか考えられなくなっています。しかし、人間は最初からお金をもっていたわけではありません。まずはお金がどういうものなのか、歴史をふりかえりながら見てみましょう。さらに、お金と幸せや豊かさとの関係について考えてみましょう。

私たちが日ごろ使っているお金は金属や紙でつくられていますが、製造にかかる費用と、できあがったお金に示されている金額が一致しているものはありません。その差は、とくに1万円札のような紙幣で大きくなります。それでも私たちは、政府が決めたお金の基準で、買い物などの日常生活を送っています。なぜ実際の価値とは違うお金が使われるようになったのでしょうか。



中国の手形

進んだ製紙技術と印刷技術でつくられました

歴史上、先に登場したのは硬貨でした。中国では紀元前から青銅でつくられたお金が使われていました。

ア. 日本もさまざまな金属の産地に恵まれ、奈良時代になると国内でもお金がつくられましたが、平城京の市場で使われたくらいで、それ以外の場所には広まりませんでした。

中国では10世紀になると、取り引きや、税の支払いにも銅銭がお金として使われ、農民も農作物を売って、銅銭を手に入れるようになりました。さらに銅銭だけでなく、「手形」とよばれる、支払いに足りるだけの銅銭を保有していることの証明書も、お金の代わりに使われるようになりました。イ. 手形は便利だったために政府も発行するようになり、やがてそれが紙幣と

して広がるようになりました。

一方、日本では中国から輸入された銅銭が取り引きに使われていました。遣唐使の派遣が途絶えた後も、中国との交易はひきつづきおこなわれました。そうした中で、ウ、中国との交易によって力をもった人びとがあらわれました。こうした人びとは、中国の銅銭を輸入することをとくに重要なことだと考えました。

戦国時代になると、大名たちは中国から輸入された銅銭だけに頼るのをやめ、お金を自らの手でつくるようになりましたが、それは領地の中でしか通用しないものでした。金や銀、銅などの鉱山の開発は、大名たちが勢力を拡大するために重要でした。たとえば、甲斐の武田氏は金山を開発しました。のちに武田氏が滅びると、その家臣たちは徳川氏に雇われて、佐渡などの金山開発にあたりました。

エ、世界遺産に登録された石見銀山の開発が進んだのもこの時代のことです。石見銀山は現在の（①）県にあります。戦国時代には、岩石から銀だけをとりだす技術が発達し、銀の生産量が急増したために、銀山は争いの的となりました。銀はおもに、外国との取り引きや、武器を買うために使われました。戦国の時代を終わらせ、オ、全国を統一した豊臣秀吉は、はじめて金の大判をつくりましたが、日常的に使うことを目的としてつくったものではありませんでした。

日本で金山や銀山の開発が進んでいたころ、中国やヨーロッパの国ぐにの商業はお金を活用することで活発になりました。取り引きの規模も大きくなり、カ、商人の交易路も新しく増え、移動距離もずっと長くなりました。中国とヨーロッパの商人は、銀を用いて取り引きをおこないました。ヨーロッパでは商人だけでなく、国王の政府も富を増やしてゆきました。こうして日本とは比べものにならないほど大量の金や銀を保有し、豊かな国づくりがおこなわれていったのです。

日本では江戸時代に入ると、まず幕府が新しい貨幣をつくり、それを全国で通用させるしくみを整えました。その結果、日本列島を縦断する取り引きも頻繁におこなわれるようになり、航路や街道を使った取り引きが盛んになりました。ですが、キ、大坂（現在の大阪）を中心とした西日本では銀貨が使われる一方で、江戸（現在の東京）を中心とした関東では金貨が使われていました。そのために、幕府はこれらのお金を交換する基準を定めました。

商業が発達するとともに、お金の使われる量もどんどん増えてゆきました。しだいに、原料の金属が不足するようになり、ほかの金属を混ぜた質の悪い小判がつくられたり、小さくした小判がつくられました。そのために、経済に悪い影響も与えましたが、江戸時代には根本的にお金のしくみが変わえられることはありませんでした。しかし、開国すると日本は大きな問題に直面することになったのです。

明治時代になると、お金のしくみが根本から変わりました。1871（明治4）年から政府は、お金の制度を欧米にならってつぎつぎに改めました。その第一歩が、お金を全国一律に統一することでした。はじめて「円」という単位が用いられたのも、紙幣が主要なお金として正式に発行されることになったのも、このころでした。1882（明治15）年には（②）が開業しました。この（②）だけが紙幣を発行できることになりました。

政府は欧米にならい、発行された紙幣を、国の保有する金と交換できるという制度をつくりました。このため紙幣は、国が保有している金の量の範囲内で発行されることになりました。紙幣は印刷された紙にすぎませんが、国の保有する金との交換が保証されることで、金との「交換券」としての役割を持ち、金と同等の価値が与えられたのです。

しかし、やがて国は金を保有しておくことをやめました。国の保有する金の量とは無関係に紙幣が発行されるようになったのです。このようにして現在でも紙幣は発行されています。紙幣それ自体に価値はありません。それでも、私たちは紙幣そのものに価値があるように考えています。ク、人びとが価値があるということを信じ込んでいるからこそ、現在のお金のしくみは保たれているのです。ですから、お金の信用がなくなると、社会は大きく混乱します。たとえば第二次世界大戦が終わった直後は、お金の価値が安定せず信用をなくしていたので、都会に住む人びとは、お金ではなく着物などの現物を農村にもって行って、物々交換で食糧を手に入れるしかありませんでした。お金は信用があつてはじめて、みんなが安心して使うことができるのです。ケ、なにげなく使っているお金ですが、私たちの生活の中で大きな役割を果たしているのです。

さて、コ、第二次世界大戦後、新しい憲法を制定した日本では、多くの人が戦後の荒廃から抜け出すために懸命に働きました。高度経済成長期を迎えると、多くの若者が地方

の農村から都会に出てきて仕事をするようになりました。やがて日本は世界有数の経済大国になりました。

経済大国になった日本で、人びとは何を獲得したのでしょうか。1980 年代後半、バブル景気がおとずれました。その時代、土地や株、宝飾品や美術品を買うことがもてはやされ、好景気に入びとは熱狂しました。しかし、好景気は短期間で終わり、長い不景気の時代に入りました。この不景気から抜け出すために、競争をうながす政策が実行されてきました。つまり、企業や個人が自由に競争できる条件を整えて、経済全体で競争を活発にさせれば、景気が回復すると考えられたのです。

しかし、競争は貧富の差を拡大させます。成功してお金を多く稼いだ人が有利になる一方で、いったん失敗するとさまざまな場面で不利になってしまうなど、多くの問題をひきおこします。

たとえば、健康保険を考えてみましょう。いま日本では、国民全員が健康保険に入っているのですが、だれもが必要な医療を受けられるようになっています。たくさん稼いでいる人と、そうでない人を区別してはいません。これに対して、アメリカでは、健康保険に入ることができない人がいます。保険に入っている人の間でも、支払うことのできる額によって入れる保険の中身が異なり、受けられる医療の質も異なります。収入が低く、保険に入ることができない人は、十分な医療を受けることができません。たくさんお金を払えば腕のよい医師に診察してもらえますが、お金がなければそれもないません。つまり、収入によって受けられる医療に大きな差が生じてしまうのです。

サ、医療や福祉、教育、政治などは、貧富によって差をつけてはならないといわれてきました。しかし、実際にはこれらの分野にもお金の力に左右されるようなことが広がっています。

お金は便利ですが、万能ではありません。私たちの使い方や考え方によっては、深刻な問題を引き起こす力をもっているのです。お金とうまくつきあってゆくためには、歴史のなかで私たちの社会がお金とどのように関わってきたのかを学ぶ必要があるといえるでしょう。

問1 文中の空らん (①) と (②) にあてはまる、もっとも適当な語を答えなさい。

問2 下線部アについて。奈良時代に大量の金属を使っておこなわれた国家事業を1つあげなさい。

問3 下線部イについて。手形は銅銭と比べてどのような利点があったのでしょうか。答えなさい。

問4 下線部ウについて。

(1) 平安時代の終わりごろ、中国から銅銭を輸入して朝廷で力をもつようになった人物はだれでしょうか。答えなさい。

(2) (1) の人物が、中国との交易で重要視し、開発を進めた地域はどこでしょうか。

つぎの①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

①若狭湾沿岸 ②鹿児島湾沿岸 ③有明海沿岸 ④瀬戸内海沿岸

問5 下線部**エ**について。つぎの文章は世界遺産に登録された石見銀山について説明したものです。文章中の空らん（ あ ）～（ う ）にあてはまる、もっとも適当な語を答えなさい。また、空らん（ え ）に入る文としてもっとも適当なものを下の①～④の中から1つ選び、番号で答えなさい。

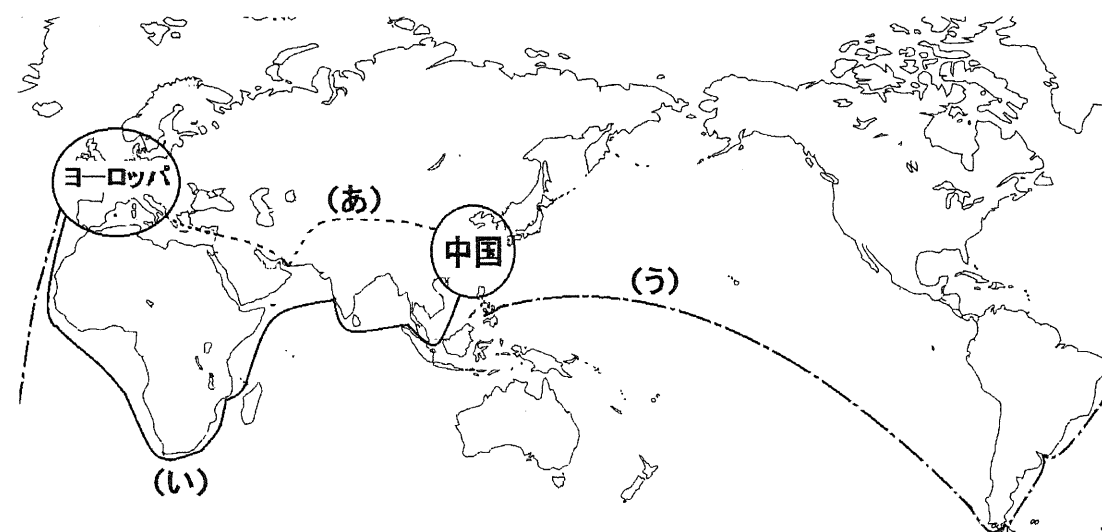
石見の銀は、徳川家康の（ あ ）船を用いた貿易で東南アジアに運ばれ、ヨーロッパ人との取り引きにも使用されるほど広まった。また、石見銀山は佐渡の金山などと同じように（ い ）として幕府に直接支配された。世界遺産を認定する国連機関である（ う ）の会議では、石見の銀が世界中に影響を与えたことも注目されたが、すでに当時から（ え ）ということも話題になった。現代の私たちがかかえる問題と結びつけられ、世界各国の関心を集めたのである。

【（ え ）に入る文】

- ① 鉱山で働く人の健康被害が起こらないしくみがつくられていた
- ② ヨーロッパでつくられた事故の少ない最新の採掘機器が使われていた
- ③ 銀を取り出すのにたくさんの木材を使う一方で、森林を保護していた
- ④ 地元の貧しい人びとから技術者を養成し、経営の重要な役目につけていた

問6 下線部**オ**について。豊臣秀吉は、大判を何のためにつくったのでしょうか。答えなさい。

問7 下線部**力**について。下の地図に示した3つの線は、それぞれ、【1】ザビエルが通ったみち、【2】マゼランが通ったみち、【3】マルコ・ポーロが通ったみちのいずれかを示しています。【1】～【3】にふさわしいみちを、地図上の線（あ）～（う）からそれぞれ選びなさい。



問8 下線部**キ**について。

- (1) 2つの地域で異なる貨幣を使っていたために、取り引きをおこなうときに必要とされる商売がありました。何という商売ですか。答えなさい。
- (2) 下の写真のように、大坂を中心に使われていた銀貨は形も大きさもふぞろいでした。支払いのとき、銀貨はどのように使われていたのでしょうか。答えなさい。



まめいたぎん
豆板銀



ちょうぎん
丁銀

問 9 下線部クについて。世の中には、人びとの思い込みにもとづいて成り立っているようなことが多くあります。

(1) 具体例を1つあげ、それについての人びとの思い込みがどのようなものか、説明しなさい。

(2) (1) の具体例について、人びとの思い込みがなくなったとき、私たちの生活はどのように変化するのでしょうか。答えなさい。

問 10 下線部ケについて。お金の果たす役割を「募金」を例として考えてみましょう。

「募金」という行為には、食料品や医薬品などの現物を集める場合とは別の利点があります。どのような利点があるのでしょうか。お金がもつ特徴に注目して、2つ答えなさい。

問 11 下線部コについて。日本国憲法の三大原理の1つである平和主義は、日本の経済復興に役立ちました。どのように役立ったのでしょうか。答えなさい。

問 12 下線部サについて。本文にある健康保険の例のように、貧富によって差をつけてはならないにもかかわらず、現実にはお金の力に左右されてしまっていることがらがあります。そのようなことからの具体例をあげて、どのような問題を引き起こしているかを説明しなさい。なお、字数は160字以上200字以内とし、句読点も1字分とします。

〈問題はここで終わりです〉

受験番号	
氏 名	

(2012年度)

社会解答用紙(その1)

問1	①	②
問2		
問3		
問4	(1)	(2)
問5	あ	い
	え	う
問6		
問7	【1】	【2】
		【3】
問8	(1)	
	(2)	
問9	(1)	
	(2)	

(整理番号)

--

小 計

